

ポスター発表「命の教育～獣医師と連携した授業で深い学びへ～」

八木良子



1 はじめに

昨年度より、学校飼育動物を飼っていない私立の小学校に勤務している。公立の小学校でも、昨今は鳥インフルエンザ、アレルギー問題、学校側の休日のえさやりの問題などで、学校飼育は必ずしも盛んになっているとはいえない状況である。

児童もそれぞれ小動物など飼育した経験の有無、あれば飼っている動物の種類、または年数、関わり方など様々に違う。そのような時、児童の飼育体験をシェアしたり、情報を図書館やネットで調べたりすることが「命の教育」の第一歩となりうると考える。

今回「命の教育」の導入は、獣医師が描いた紙芝居で行い、3ヶ月間クロスカリキュラム的学習を行い、最後にそれぞれが学んだことを発表する「命の発表会」を計画した。その発表会で獣医師に的確なアドバイスなどをもらえれば児童の学びはいつそう深いものとなると考える。

2 学習計画

私が勤務する福岡雙葉小学校は、イメージ教育に取り組み、去年担任していた3



命の授業

C(3年生)クラスはネイティブの英国人の教師と日本語の国語と社会の授業だけ担当する日本人の私とで担任している。よって、わたしは教科としての道徳や学活の授業を持ってないので国語を中心とした「命の教育」の学習を以下のように計画した。

(1) めあて

国語 「報告する文章を書いて発表会をしよう。」をメインにすえ、もう一人の外国人担任の英語での授業

理科 「生物 身体づくり」

道徳 「いのちの大切さ」のときに、日本語で補足したり、時間をもったりすること

保健 「人の命の誕生」(例年 3年生の3学期に保護者と一緒に学習する機会がある)などの授業と並行して、児童の「命」への関心を深めたり、友人の発表や調べ活動や中間報告で知ったりすることを通して「命」の大切さを学ぶことができるように計画した。

(2) 学習の流れ

導入として、獣医師の作成した「うさぎの気持ち」という紙芝居を使い、うさぎの気持ち(他者の命)を考え、大切に接することを学び、そこから自分が調べて報告するためのテーマを「命」に関することから選び、文章を書き、発表会で交流することを目標とした。それぞれが選んだテーマは

①自分の経験から

・家庭での飼育体験について(犬・猫・魚・

ウサギ・モルモットなど)

- ・身近な人の「老」「死」について(祖父母の病気や死について)
- ・身近な人の「生」について(幼い弟妹の世話について)
- ・自身の病気について

②本やネットで調べたことから

- ・それぞれの動物の生態について
- ・食物連鎖について
- ・くじらとプラスチックごみの問題について

※紙芝居「うさぎの気持ち」の作者の意図について

※本の紹介「犬を飼う前に読みたい5つの物語」「犬との10の約束」「いのちをいただく」「死んでくれた」と多岐にわたった。

3 獣医師との連携

それぞれのテーマの報告会(命について発表会)を二部に分け、※印のテーマを発表する会を後半に持ってきて、獣医師にアドバイスしてもらうことにした。

(1) 富岡史子先生

マリナー動物病院(福岡市西区 中岡典子院長)に勤務。診療はもとより院長と考えを同じくされ、長く学校飼育活動全般の支援をしたり、地域猫の活動を助ける活動をされたり、最近では、高齢者のペットの問題についても解決のための努力をされたりしている獣医師である。この病院は十数年前から公立小・中学校での出前授業をされ、児童・生徒に「命の大切さ」について獣医師の立場で指導をしてくださっている。今回もゲストティーチャーとして指導助言をお願いした。

(2) 事前の打ち合わせ

富岡先生ご自身の経験から、児童に伝えたいことがたくさんあるのが分かったが、発表会後半1時間の設定の中で児童の発表にアドバイスいただくという形をとったため、事前の打ち合わせを入念に行った。当日前に数回お会いし、こちらの目的、先生に話していただきたいこと、先生がみんなに話したいことなどすり合わせどこに重点を置くか計画を立てた。



獣医師の富岡先生による説明

4 授業

発表3時間計画の中の最後の一時間 ゲストティーチャーとして教室に来ていただいた。

(1) 紙芝居「うさぎの気持ち」を描いたねらい

○児童の発表 富岡先生は、動物も人間と同じでいろんな感情があるよということを知らせたかったんだと思います。けんたくんやまわりのこどもたちが勝手にうさぎの気持ちを考えてうさぎが喜んでると思って一緒に遊んでしまいました。でも、よく考えたら、人間でも初めてつれてこられたところで楽しくあそぶことはできないと思います。よく相手の身になって考えましようといいますが、うさぎやほかの動物にかんしてもそうだと思います。富岡先生は、みんなが「相手のことをかんがえて行動する」ことを、小さな動物にたいしても思い出するようにこの紙芝居をつかったんだと思います。

○富岡先生のアドバイス

では、私が紙芝居をとおして伝えたいことを付け加えて話させてもらいます。

動物は人のことばが話せません。なので、動物のことをわかってあげられたのか?という疑問に、言葉で返してくれるわけありません。でも、確かな答えの一つに「幸せの顔」があるんです。私は、それを求めて、日々動物たちと向き合っています。

では、幸せの顔になってもらうには、どうしたらいいのでしょうか。相手の動物のことを知り、理解と思いやりを持って接するんです。まず大事ななのは思い込みを捨てることで

す。けんたくんがうさぎさんの怒っている行動を勘違いしてましたよね。人と動物では表現がちかいます。わかっているつもりになって、人の目線で考えた勝手な思い込みで動物の行動を判断する前に、まず知らないということに気づいてください。

そして、勉強してください。触れ合う相手が自分とどんなところが違っていて、どんなところが似ているのか。その上で相手の気持ちになって触れ合ってみてください。思いやりを持って触れ合うと、必ず、心の会話ができます。

会話ができてくると動物達は、この居場所に安心感を持ってくれるようになります。そして、幸せの顔が見えてくるようになりますはずです。それを見た時が、自分の接し方はこれでよかったんじゃないかと思える瞬間です。

幸せの顔にしてあげる方法
思い込みを捨て、知らないということに気づく。知らないことを学ぶ、触れ合う。

(2) 「犬を飼う前に読みたい5つの物語」

○児童の発表 わたしは、「犬を飼う前によみたい5つの物語」を読みました。その中の「理子の願い」という話が一番心に残りました。理子が飼っていた犬の花子が迷子になったとき、保健所に探しにいきました。そこに、花子と9匹の犬がいました。他の9匹の犬が殺されると聞き、理子はかわいそうと思いました。理子はお母さんになんでもするからと9匹の犬を助けてくれるように頼みます。それから、飼ってくれる人を探しているお話です。

最後に理子さんは、自分が大人になったときに、犬を飼って寿命がなくなるまで一緒に居てあげるんだと心に強く思います。わたしも同じように思いました。

○富岡先生のアドバイス

「犬を飼う前に読みたい5つの物語」

私の病院であった、「いのちをつなぐ」そのリレーがうまくいった話をさせてもらいます。

桃子ちゃんという犬は、みんなと同じ9歳です。おじいさんと二人きりでマンションに

住んでいました。でもおじいさんが病気で入院することになり、桃子ちゃんは、一人マンションに取り残されました。このままだと桃子ちゃんはごはんももらえず、おなかのすいたまま死んでしまいます。そのことを、マンションの管理人さんが気づいてくれました。その後、一人暮らしのおばあさんにもらわれますが、またおばあさんも病気になりました。長く生きられないと分かったおばあさんは動物病院につれてきて安楽死をお願いしました。それで、事情を聞いたマリーナ動物病院が貰い手をさがすことになりました。無事に桃子ちゃんに新しいおうちを見つけることができました。

このように飼い主の高齢の方が、入院したり亡くなったりすることで、それまで生活のパートナーとして心の面で飼い主を支えていたであろうペットの行き場所がなくなり、ペットの生命の危機さえ招きかねない状況が生まれていることも大変問題だと思っています。

「犬と私の10の約束」

○児童の発表 わたしは、「犬と私の10の約束」を読んで、

3. 私にも心があることを忘れないでください。

5. 私にたくさん話しかけてください。人の言葉は話せないけど、わかっています。

8. あなたには、学校もあるし友だちもいます。でも、私には、あなたしかいません。

10. 私が死ぬとき、お願いします。そばにいてください。そして、どうか覚えていてください。



「犬と10の約束」の発表

「私がずっとあなたを愛していたことを」が心に響きました。小さい頃飼っていた犬を思い出したからです。私は、絶対この約束を守って動物に接したいと思います。

○富岡先生のアドバイス

飼うにあたっての約束は、犬に限らず、猫、ハムスター、フェレット、鳥、魚、なんであっても、その子を幸せに過ごさせるための約束として必ず必要なんです。

秋子さんという猫は全身を皮膚の病気におかされ、栄養失調の状態で、箱につめられて捨てられていました。親切な人が見つけた時、この子は動くこともなくぐったりしていたそうです。幸運にもこの猫は病院に連れてこられました。

この子を捨てた人は、治療もせず、ご飯もたべられなくなるような状態までほうっておき、手に負えない状態になって、この子を捨てたのです。皮膚はすぐに治せるものだった



ので、病院で保護し、治療をし、あとはただただ温かくしてご飯をあげました。そして、数ヶ月後、元気になることができ、新しい里親が見つかり、元気に過ごしています。

マルさんという猫は、熊本の地震と一緒に暮らしていたおじいちゃんの家が壊れてしまい、もうそこに住めなくなってしまいました。人間が災害にあったとき、人に対しては、国が守ってくれます。でも、動物のことは守るきまりはありません。つまり、おじいさんの行く場所を探してくれますが、猫のいく場所はありません。この猫の場合、いろんな大人が猫のことを考えていのちのリレーをしてくれました。

どちらの物語も、動物を命あるものとして

いのちをつなぐ

その子の一生を幸せに全うさせること。
責任を持って、その命の最後をみとること。
もし、それがどうしてもできなくなった時、
新しい家族を見つけてあげること。
一人で背負わず、家族、友人、動物病院、いろいろな人と協力して、
一緒に生きていくということ。

大事に死ぬまで寄り添ってすごす約束が必要だと考えさせられます。

(3) いのちをいただくということ

○児童の発表 「しんでくれた」「いのちをいただく」の本を読んで、私は、おいしいお肉や魚もみんな人間のために途中で命をくれているということがしっかりわかりました。今までどうやって生きている牛や鳥や魚がわたしたちのところまでくるのかははっきりとは、わかりませんでした。

もしかしたら、動物は、食べないでみんなが生きられるようにしたほうがいいのかとかそうではなく、ちゃんと残さず食べることでその動物のいのちをもらうほうがいいのかとたくさん考えました。おうちの人や先生とも話しました。

お料理で出されたものは、のこさず食べて大事に日々をすごすこと。自分の命や他の人や動物の命のことを考えることを学びました。まだわからないことがたくさんありますが、人間とほかの動物の関係についても考えていきたいと思います。

○富岡先生のアドバイス

家畜として生まれた動物の一生 牛さんの生活、どんな場所で過ごし、どんなものを食べて

どうやって眠ってるんでしょう。寿命を全うさせてあげられない中で、私たちにできることは何でしょう。生きているその時間を幸せに過ごさせてあげることです。

では、何が幸せか？その動物にはなりえないので、そこに本当の答えを出すことはできません。でも、これも犬や猫と同じです。

いのちをつなぐ

いのちを食べることで命をつないでいることをしる
食べることへの感謝
いきていることへの感謝

(4) おうちのない猫の活動について

○富岡先生の話

お家のない猫ちゃんは、多くは子猫のうちに亡くなります。その原因は、風邪だったり、栄養失調や交通事故だったり、お家のない猫ちゃんは、長く生きられないことが多いです。お家で飼われている猫ちゃんの寿命は何歳でしょうか？15歳です。では、お家のない猫ちゃんの寿命は何歳でしょう。3～5歳です。

すべての猫ちゃんにお家をつくってあげたいですね。ただ、家ができて、約束を守らない人間に、動物が傷つけられることもあります。その現実をなくすためになにをしたらいいのでしょうか。

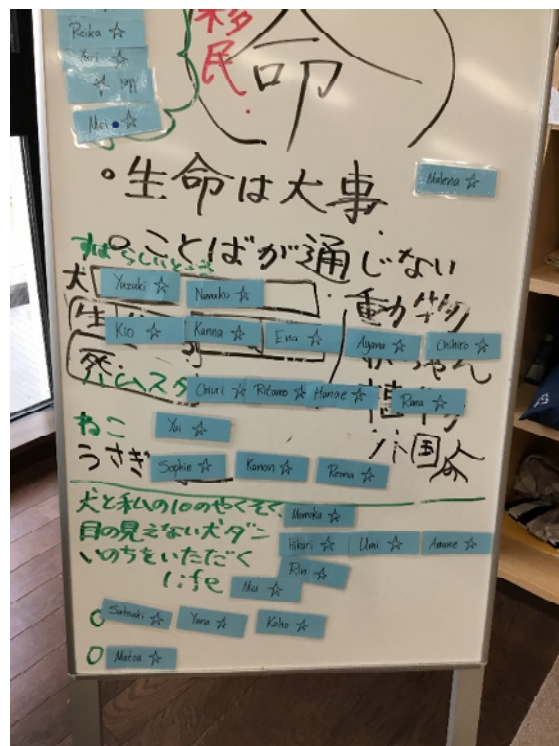
私は、みんなに動物の幸せの顔を知ってもらうことで、動物も心を持っていることや、一緒に生きることの大切さに少しでも気づいてもらえたらと思っています。人間を含めたすべての動物の命の大切さを感じてもらいたいです。

5 おわりに

児童は、それぞれが調べてきたことについて、友達と共有することができ、獣医師のアドバイスもいただき、関心も知識も広がった。

最初、児童の色々な発表についてそれを聞く側の児童の精神的な発達の度合いが違うので「保護犬」「保護猫」「殺処分」「命をいただいている現状」についての理解が正しくできるだろうかと不安に感じていた。富岡先生の言いたいことが伝わるだろうかと心配していたが、先生の実際の体験を踏まえたお話は児童の心に直接響いたと思う。

限られた一時間という中で最大限に「命」の大切さを伝えるためには、獣医師が伝えたいこと、教員が児童に知らせたいこと、考えさせたいことのすり合わせ、ポイントの絞り方がとても重要になってくると思われる。事



紙芝居あとに命に関することをテーマに選ぶ

前に何度も打ち合わせの時間をいただいて恐縮したが、大変有効な学びの場となったと思う。

学校現場で飼育動物を飼えない状況が広がっていくのであれば、児童それぞれが持っている体験や情報を交流しあい、そこに専門家の適切な助言をいただく今回のような取り組みは一考いただく価値はあると思う。

福岡雙葉小学校

※「犬を飼う前に読みたい5つの物語」

海鳥社 山本十夢

※「犬と私の10の約束」「犬の十戒」作者不詳の短編詩を元に文芸春秋 から

※「しんでくれた」谷川俊太郎

※「いのちをいただく」講談社 内田美智子

※おうちのない猫たち 福岡県獣医師会の「おうちへ帰ろうプロジェクト」の取り組みの一つで作られた啓発ビデオ